



平成28年度 全国体力・運動能力、 運動習慣等調査

北広島市の結果

北広島市教育委員会

平成29年2月

<もくじ>

- 1 調査の概要
- 2 調査結果
 - (1) 体格と実技に関する調査
 - (2) 肥満度に関する調査
 - (3) 児童生徒質問紙調査
 - (4) 学校質問紙調査
 - (5) クロス集計
- 3 調査結果より

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 国が全国的な子どもの体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の対象

- ・小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年の全児童
- ・中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年の全生徒

(3) 調査の内容

①児童生徒に対する調査

ア 体格と実技に関する調査

- ・体格：身長、体重
- ・実技：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン（中学校は持久走も可）、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（中学校はハンドボール投げ）

体力テスト種目	単位	体力要素	測定
① 握力	kg	筋力	左右握力の平均値。
② 上体起こし	回	筋パワー・筋持久力	30秒間に上体を起こした回数。
③ 長座体前屈	cm	柔軟性	長座位で前屈したときの両手の前方への移動距離。
④ 反復横とび	点	敏捷性	20秒間に両脚で左右側方に反復跳躍した回数。
20mシャトルラン	回	全身持久力	20m 走行の折り返し回数。
⑤ 持久走 ※中学校のみ 選択可	秒	全身持久力・長距離 走能力	男子 1500m, 女子 1000m の走行時間。 ※中学校は、⑤のどちらか1種目を選択。 両方実施した場合は得点の高い方で総合評価
⑥ 50m走	秒	疾走能力	50m の疾走時間。
⑦ 立ち幅とび	cm	筋パワー・跳躍能力	両脚で前方へ跳躍した直線距離。
⑧ ボール投げ	m	巧緻性・投球能力	ボールを遠投した距離。 ※小学校はソフトボール 中学校はハンドボール
体力合計点	点	8種目の体力テスト成績を1～10点に得点化して総和した体力テスト合計点。	



イ 肥満度に関する調査

ウ 質問紙調査

②学校に対する質問紙調査

(4) 調査の方法 悉皆調査

(5) 調査の実施期間 平成28年4月から平成28年7月末までの期間で実施

(6) 調査学校数・児童生徒数

	全 国		北海道		北広島市	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	20,259	1,055,897	1,088	41,749	9	505
中学校	10,027	1,008,414	633	42,098	7	548
合 計	30,286	2,064,311	1,721	83,847	16	1,053
	(校)	(人)	(校)	(人)	(校)	(人)

※ 陽香分校を含む

(7) 調査結果の留意事項

- 本資料において、北海道及び全国はいずれも公立の学校を示したものである。
- 本調査の集計・分析は国において、実技調査、児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査の回答の精査を行い、性別不明など一部のデータは集計・分析の対象外としている。
- 体格と実技のレーダーチャートは、全国の割合を50とした時の北海道の値と北広島市の値を示している。
- 本調査結果は、体力・運動能力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることに留意する必要がある。

2 結果の概要

(1) ■ 体格と実技に関する調査

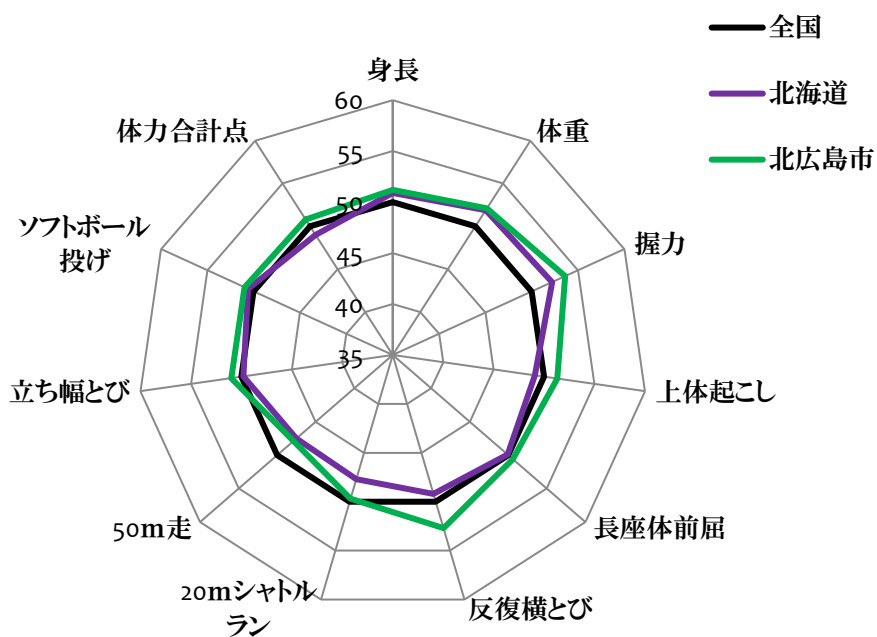
	身長	体重	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	50m 走	立ち 幅とび	ボール 投げ	体力合 計点
北広島市	○	○	○	—	—	○	—	△	○	—	—
小 男	○	○	○	○	—	○	—	△	○	○	—
小 女	○	—	○	—	○	○	△	△	○	○	○
中 男	—	—	—	—	—	○	—	△	○	—	—
中 女	○	—	○	—	—	○	△	△	—	—	—

※全国を50とした時の数値 ○:1ポイント以上上回っている、—:ほぼ同程度である、△:1ポイント以上下回っている

- 体格 ・身長・体重とも全国と同程度または全国を上回っている。
- 体力合計点 ・小学校男子・女子、中学校男子で全国平均を上回り、中学校女子は全国平均と同程度である。
- 各種目 ・小学校・中学校、男女とも、反復横とびは全国を上回っている。
・小学校・中学校、男女とも、50m走は全国平均を下回っており、取り組みについて工夫改善が必要な種目である。
・昨年度、全体として全国平均を下回った20mシャトルランは、小学校男子と中学校男子が全国と同程度となり、取り組みの成果がうかがえる。

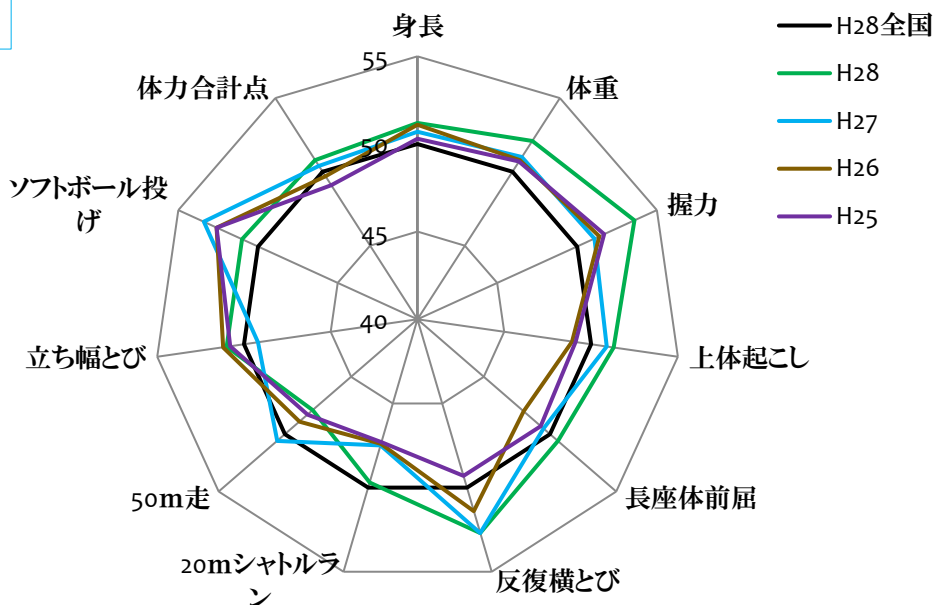
① 小学校 男子

ア 各種目の状況



- ・ 身長・体重ともに全国を上回っている。
- ・ 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げは、全国を上回っている。
- ・ 20m シャトルラン、50m 走は全国を下回っている。
- 体力合計点は、全国を上回っている。

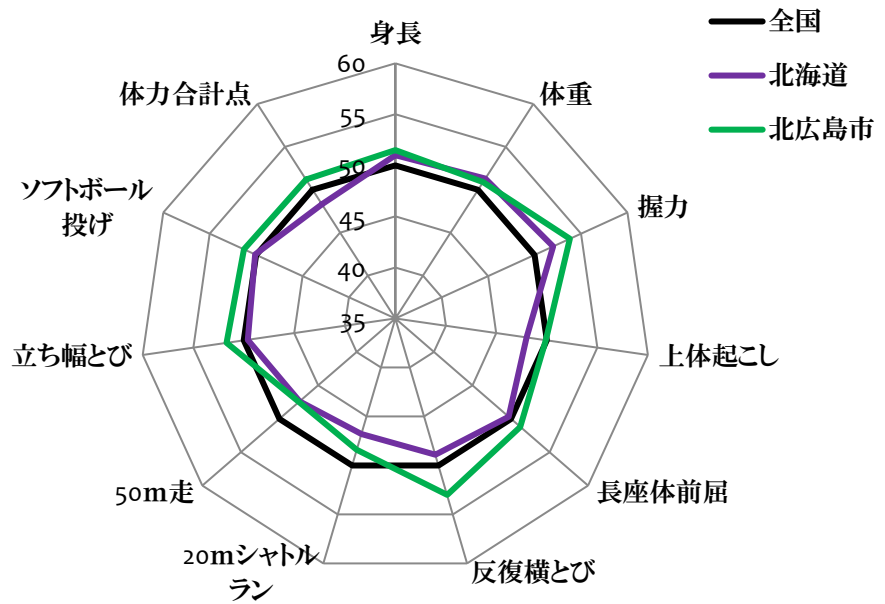
イ 各種目の経年変化



- ・ 身長は昨年度と同様であり、体重は昨年度までを上回っている。
- ・ 握力、上体起こし、長座体前屈、立ち幅とび、20m シャトルランは昨年度を上回っている。
- ・ 50m 走、ソフトボール投げは、昨年度を下回っている。
- 体力合計点は、昨年度とほぼ同程度である。

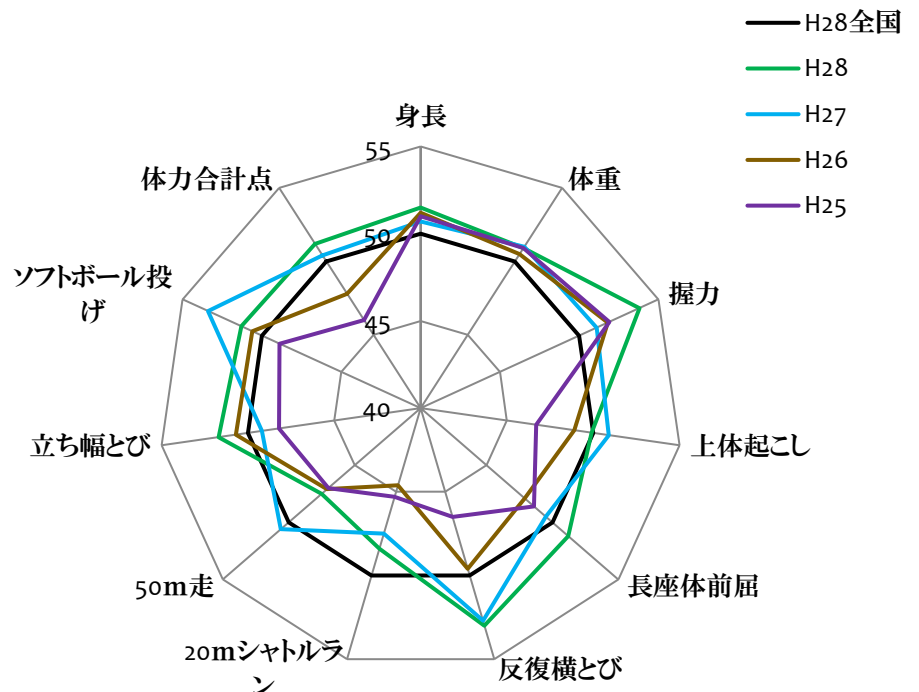
② 小学校 女子

ア 各種目の状況



- 身長・体重ともに全国を上回っている。
- 握力、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げは全国を上回っている。
- 20m シャトルラン、50m 走は全国を下回っている。
- 体力合計点は、全国を上回っている。

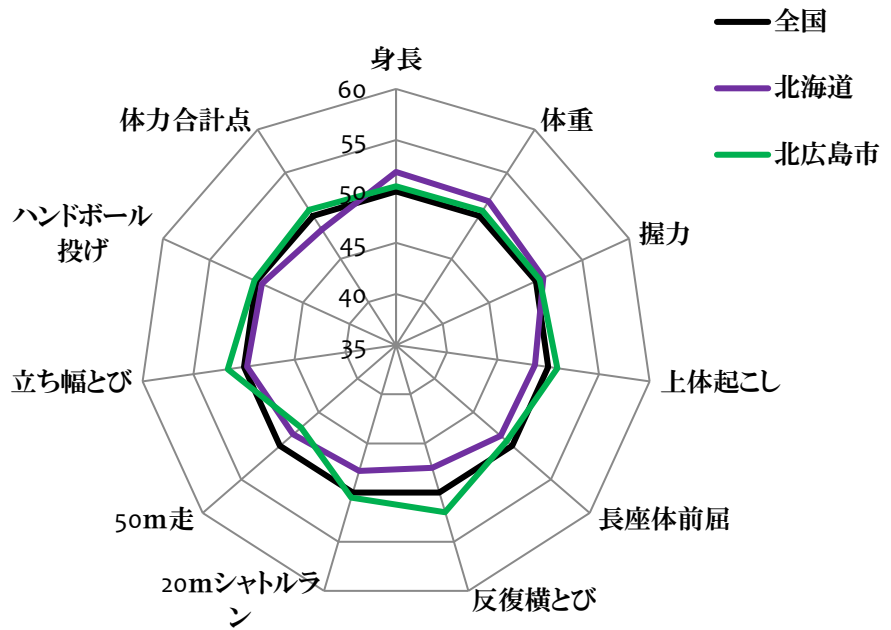
イ 各種目の経年変化



- 身長は昨年度までを上回り、体重は昨年度とほぼ同程度である。
- 握力、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とびは、昨年度を上回っている。
- 上体起こし、50m 走、ソフトボール投げは、昨年度を下回っている。
- 体力合計点は、昨年度をわずかに上回っている。

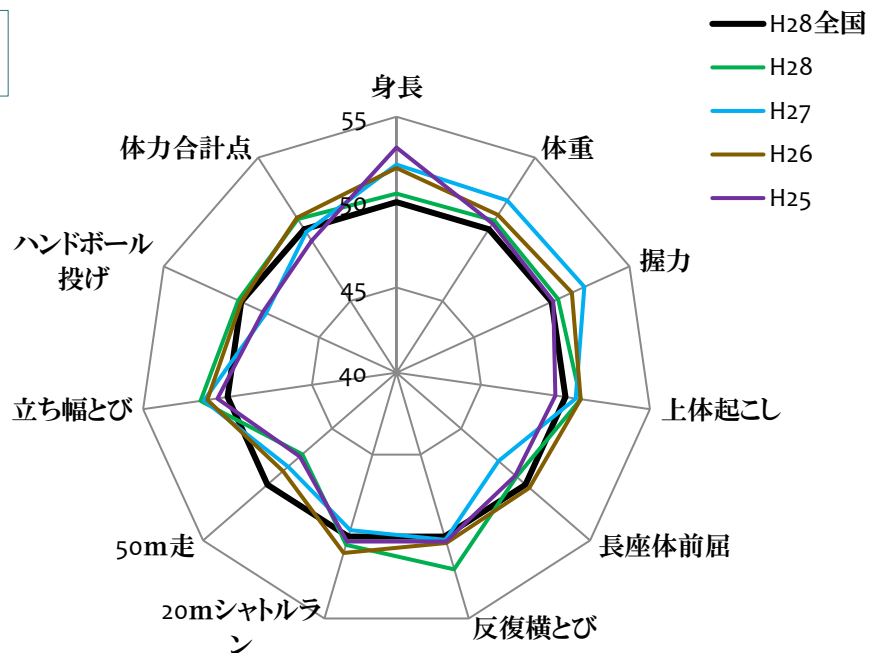
③ 中学校 男子

ア 各種目の状況



- 身長・体重ともに全国を上回っている。
- 握力、上体起こし、反復横とび、20m シャトルラン、立ち幅とび、ハンドボール投げは全国を上回っている。
- 長座体前屈、50m 走は全国を下回っている。
- 体力合計点は、わずかに全国を上回っている。

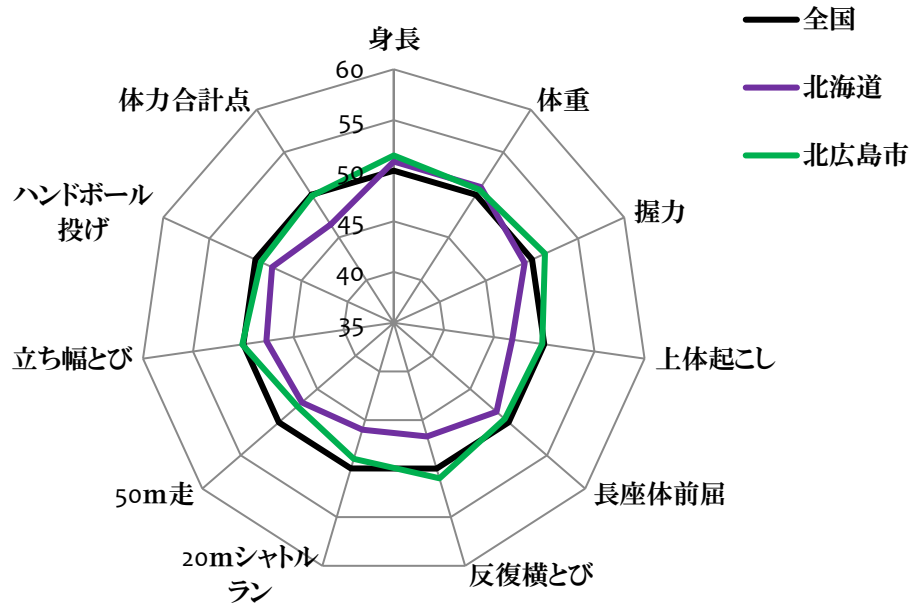
イ 各種目の経年変化



- 身長・体重ともに全国を上回っているが、昨年度よりは下回っている。
- 長座体前屈、反復横とび、20m シャトルラン、立ち幅とびは、昨年度を上回っている。
- 握力、50m 走は、昨年度を下回っている。
- 体力合計点は、昨年度を上回っている。

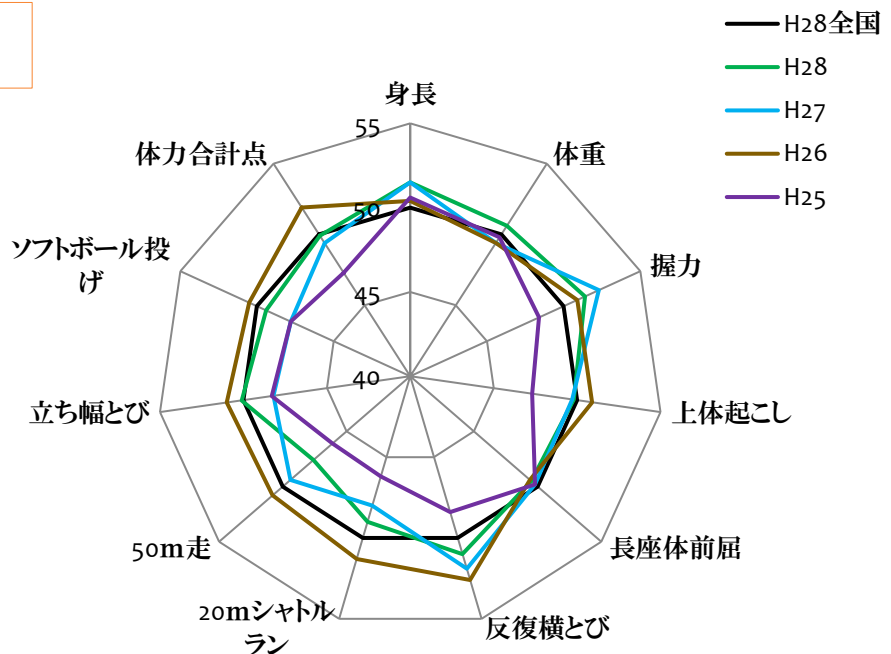
④ 中学校 女子

ア 各種目の状況



- 身長、体重ともに全国を上回っている。
- 握力、反復横とび、立ち幅とびは、全国を上回っている。
- 上体起こし、長座体前屈、20m シャトルラン、50m 走、ハンドボール投げは全国を下回っている。
- 体力合計点は、全国とほぼ同程度である。

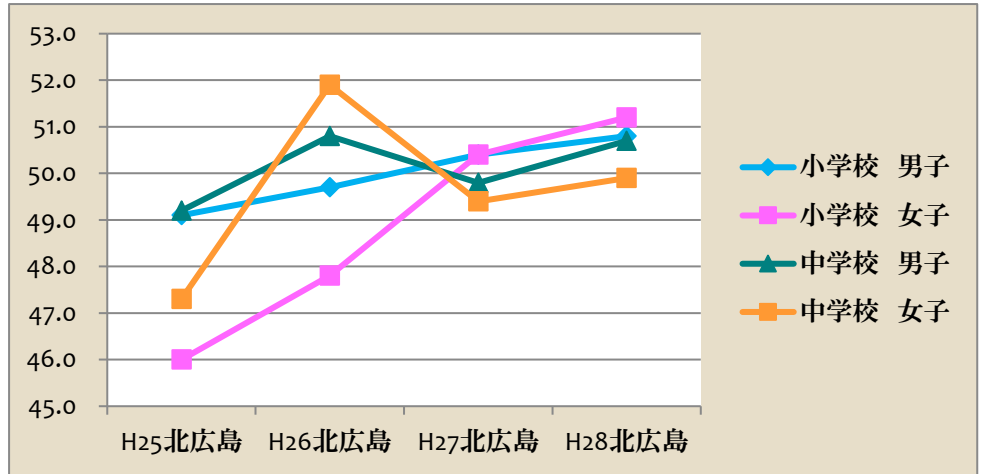
イ 各種目の経年変化



- 身長は昨年度と同程度であり、体重は昨年度までを上回っている。
- 20m シャトルラン、立ち幅とび、ソフトボール投げは、昨年度を上回っている。
- 握力、反復横とび、50m走は、昨年度を下回っている。
- 体力合計点は、昨年度をわずかに上回っている。

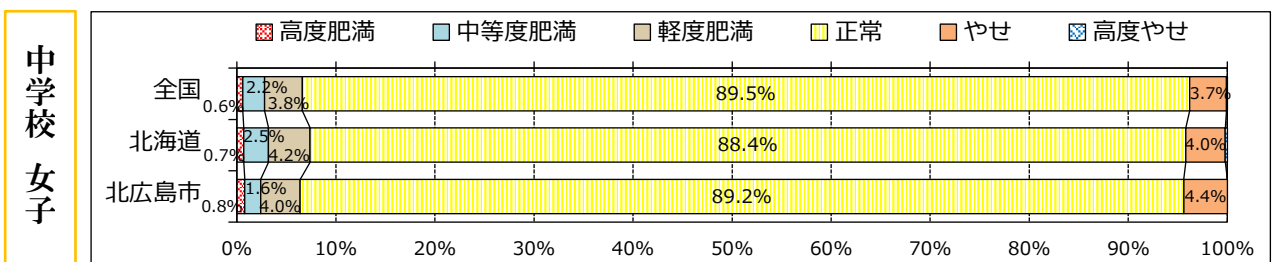
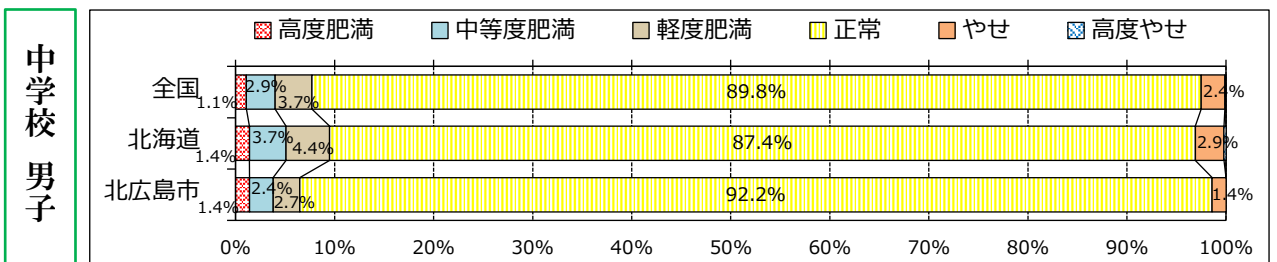
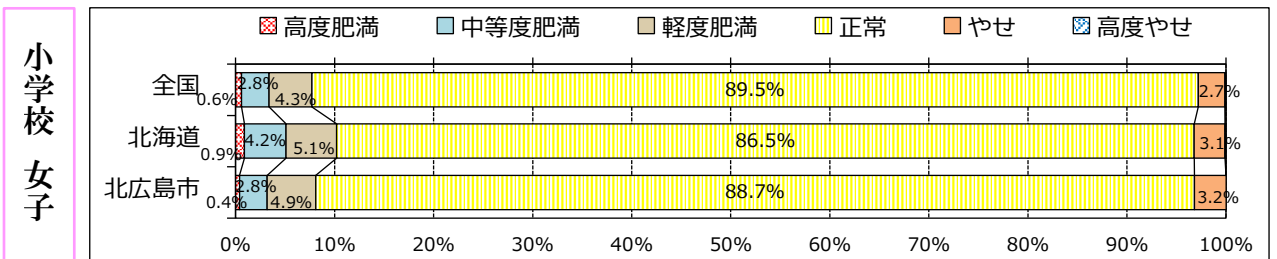
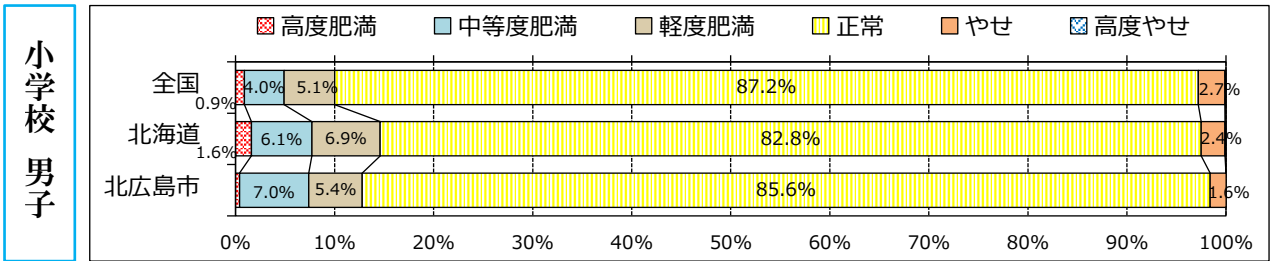
⑤ 体力得点の

推移

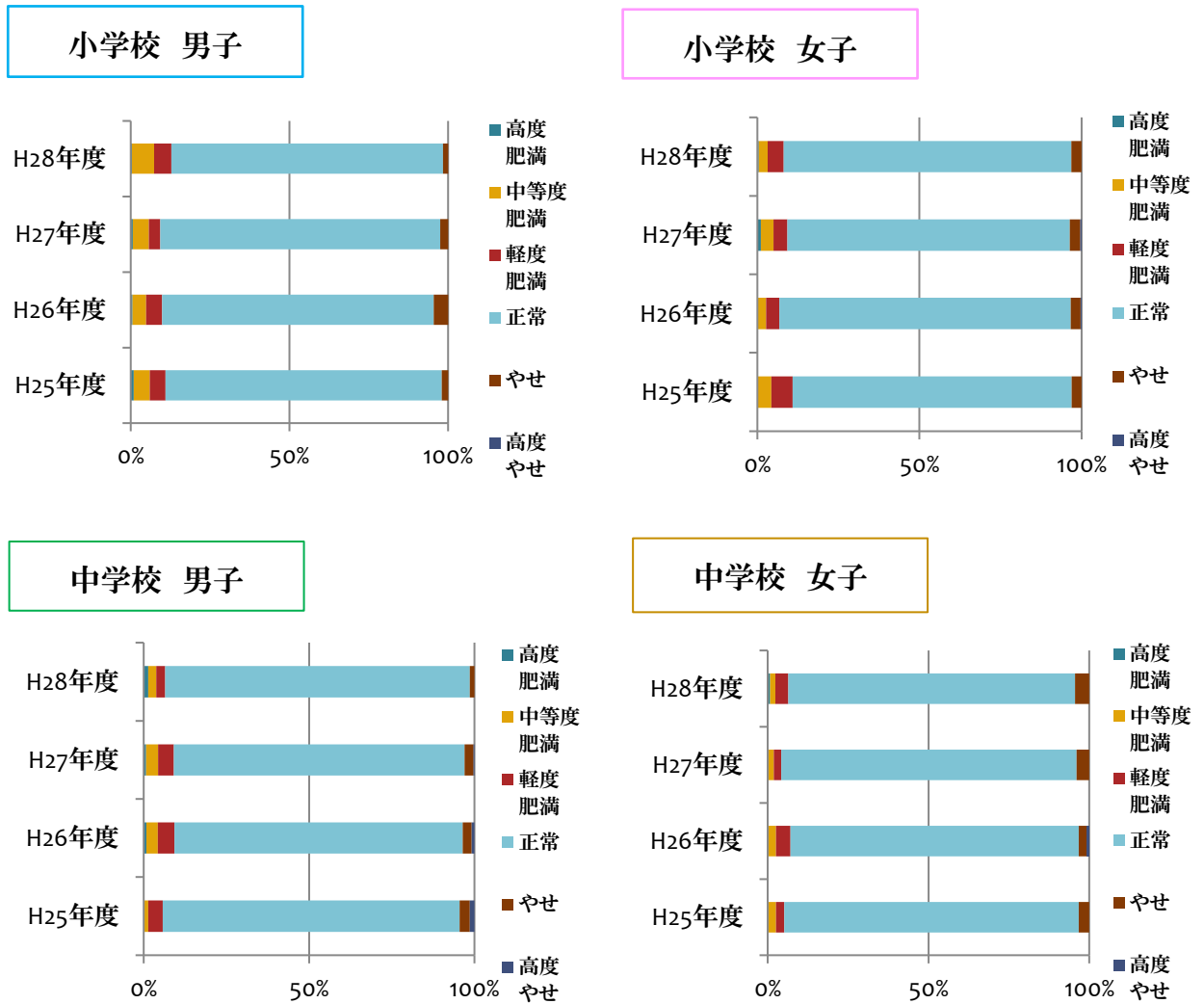


(2) 肥満度に関する調査

① 肥満傾向児・痩身傾向児の出現率



② 肥満傾向児・痩身傾向児の出現率の経年変化



○肥満傾向・痩身傾向ともに全国とほぼ同程度である。

- ・小学校男子は、肥満傾向が全国と比べてわずかに高く、痩身傾向がわずかに低い。
- ・小学校女子は、肥満傾向、痩身傾向ともに全国と同程度である。
- ・中学校男子は、肥満傾向、痩身傾向ともに全国よりわずかに低い。
- ・中学校女子は、肥満傾向が全国とほぼ同程度で、痩身傾向がわずかに高い。

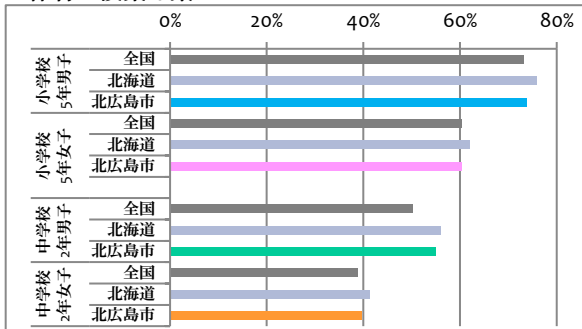
○経年変化について、痩身傾向に大きな変化は見られないが、肥満傾向は年度により、わずかながら差異が見られる。

- ・小学校男子は、昨年度までより、肥満傾向がわずかに高く、痩身傾向がわずかに低い。
- ・小学校女子は、肥満傾向・痩身傾向ともに、昨年度までとほぼ同程度である。
- ・中学校男子は、肥満傾向・痩身傾向ともに、昨年度よりわずかに低くなっている。
- ・中学校女子は、肥満傾向・痩身傾向ともに、昨年度よりわずかに高くなっている。

(3) 児童生徒質問紙調査

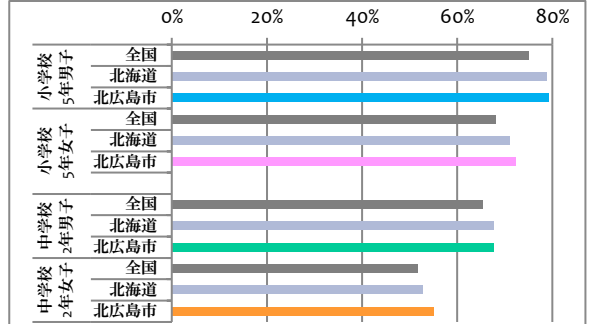
① 「そう思う」と回答した割合

■ 体育の授業は楽しい



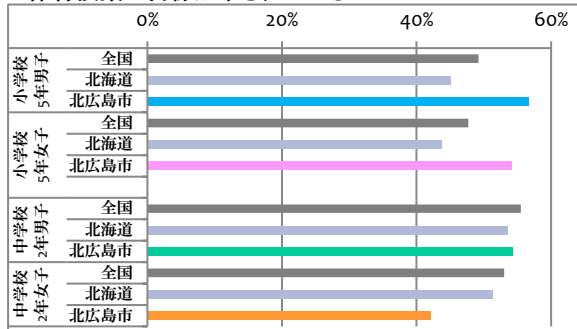
■ 小学校～中学校で授業以外でも自主的に運動したい

■ 中学校～中学校卒業後、自主的に運動したい

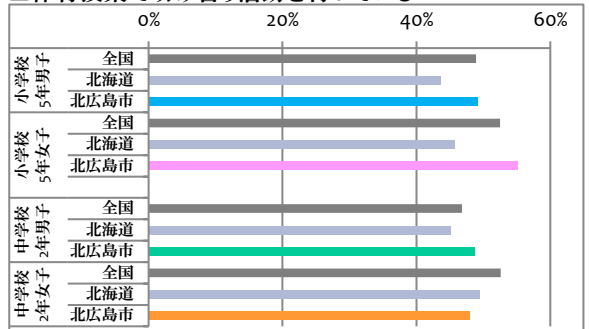


② 体育授業における各活動について

■ 体育授業の目標が示されている

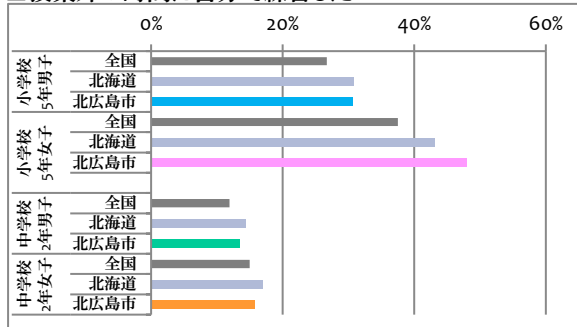


■ 体育授業で助け合う活動を行っている

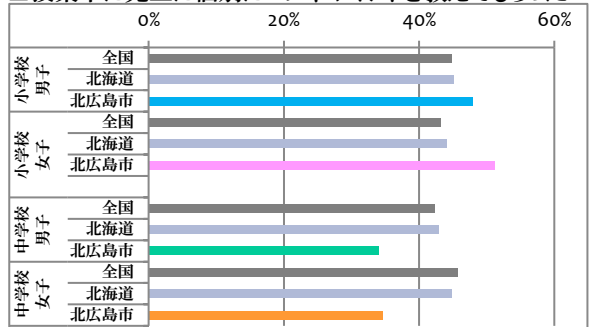


③ できないことができるようになったきっかけ

■ 授業外の時間に自分で練習した



■ 授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった



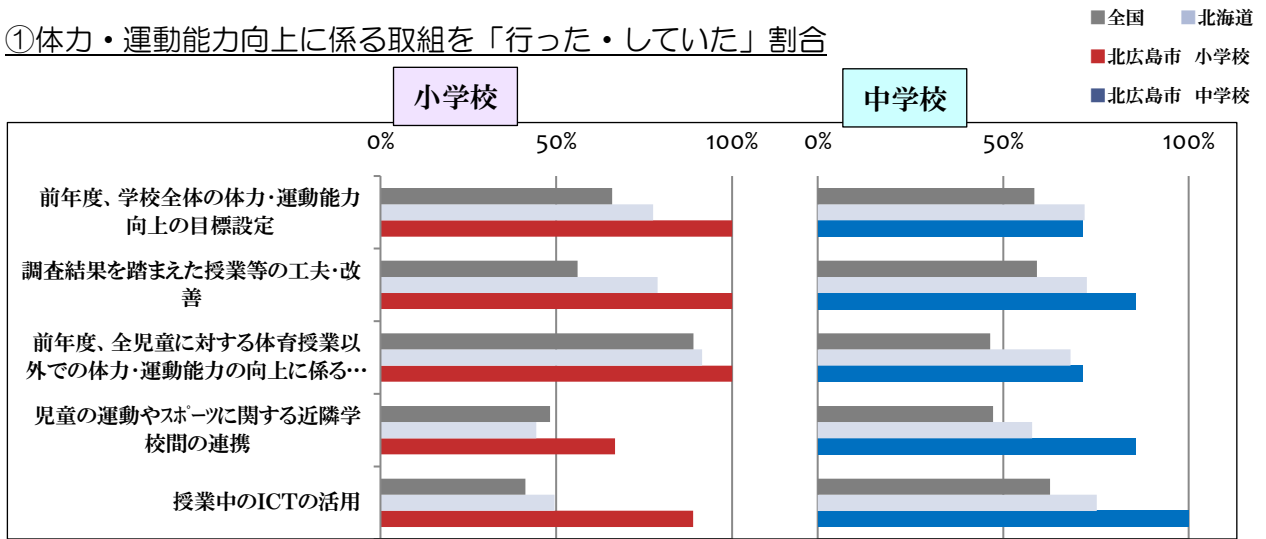
■ 傾向が顕著な項目

- ・「体育の授業は楽しい」、「卒業後も自主的に運動したい」と回答した割合が、小学校・中学校ともに全国を上回り、体育や運動についての意識が高い様子がうかがえる。
- ・体育授業における各活動で、「目標を示す活動」や「助け合う活動」で小学校男子・女子、中学校男子で全国を上回っている。
- ・「できないことができるようになったきっかけ」として、「授業外の時間に自分で練習した」と回答した割合が小学校・中学校ともに全国を上回り、「授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」と回答した割合が小学校で全国を上回った。

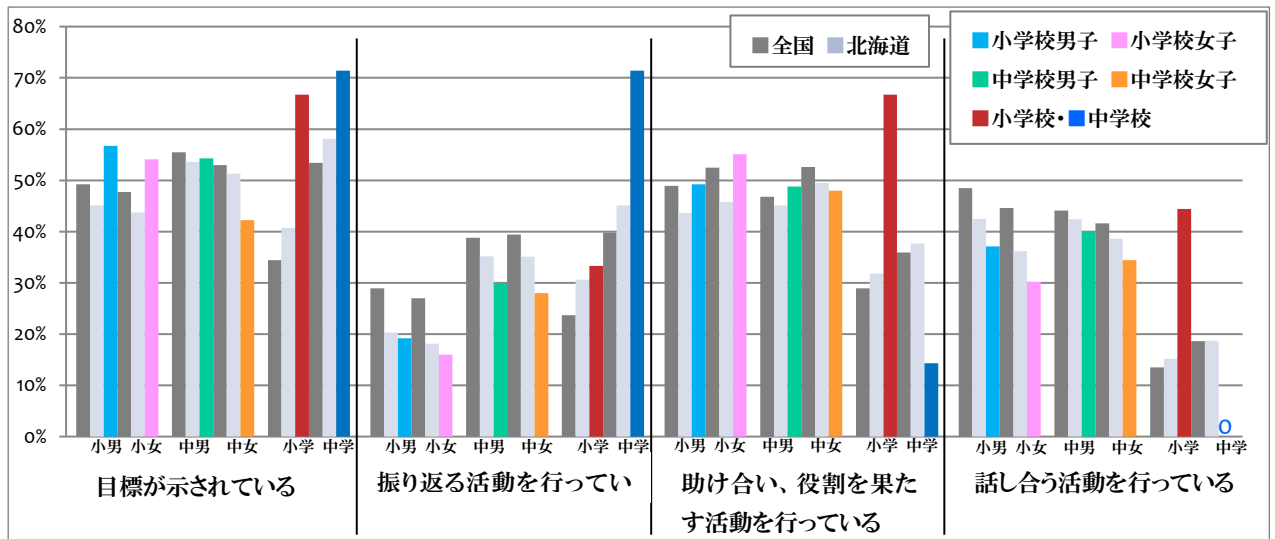
※ 小学校は体育、中学校は保健体育。「体育・保健体育授業」は、以後「体育授業」と記述。

(4) 学校質問紙調査

①体力・運動能力向上に係る取組を「行った・していた」割合



②体育授業における各活動を「いつも取り入れている」割合



■傾向が顕著な項目

- 「体力・運動能力向上に係る各取組」では、小学校・中学校ともに、ほぼすべての項目で全国を大きく上回っている。
 - 「授業中のICTの活用」について「いつも取り入れている」割合が、90%~100%近くとなっており、全国を大幅に上回っている。
 - 体育授業における各活動について、小学校は「目標を示す活動」、「助け合い役割を果たす活動」、「話し合う活動」で全国を上回り、中学校は「目標を示す活動」「振り返る活動」で全国を上回った。
 - 同じ質問項目に対する児童生徒質問紙と学校質問紙の回答の差異が大きい部分が見られる。
- ※ 学校質問紙の「話し合う活動をいつも取り入れている」の項目で、中学校の回答が0となっているが、「だいたい取り入れている」は86%となっており、全国を大幅に上回っている。中学校では、生徒の運動量確保の観点から、「話し合う」活動を毎回の授業でいつも取り入れるというよりは、授業の内容に合わせて適宜取り入れている学校が多い傾向にあると考えられる。

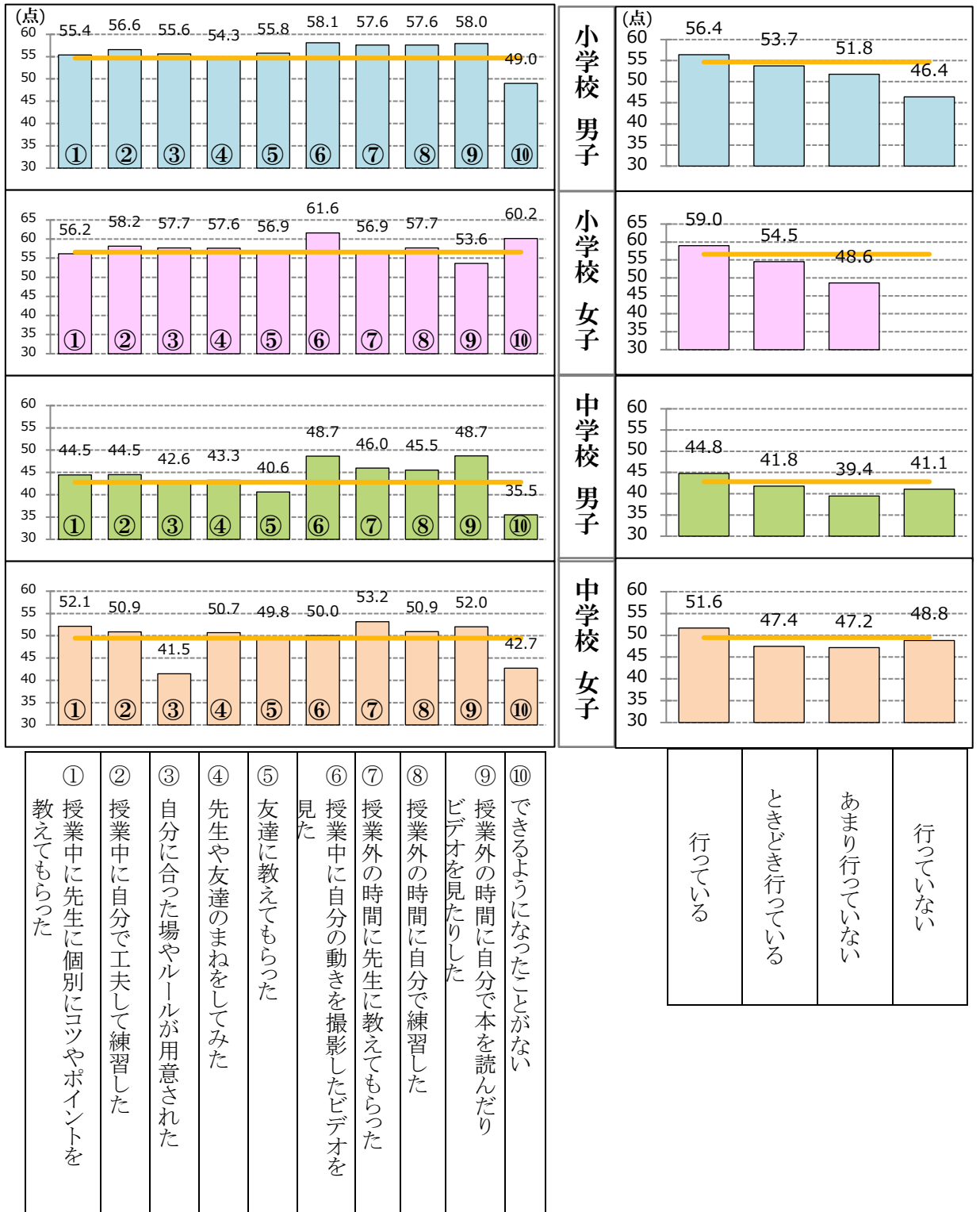
(5) ■クロス集計

設問に対する回答と体力合計点との関係を表したもの

※横線（オレンジ色）は北広島市の平均を表します。

① できないことができるようになったきっかけ

② 体育授業で助け合い役割を果たす活動
を行っている



クロス集計 <肥満度と体力合計点との関係>



- 体育授業で、できないことができるようになったきっかけとして「授業外の時間に先生に教えてもらった」、「授業外の時間に自分で練習した」、「授業中に自分の動きを撮影したビデオを見た」と回答した児童生徒は、「行っていない」と回答した児童生徒より体力合計点が高い傾向にある。
- 体育授業で「助け合い役割を果たす活動を行っている」と回答した児童生徒は、「行っていない」と回答した児童生徒より体力合計点が高い傾向にある。
- 肥満度について、「正常」または「やせ」傾向の児童生徒は、肥満傾向にある児童生徒より体力合計点が高い傾向にある。

3 調査結果より

(1) ■体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

■北広島市の児童生徒の平均値から

- ・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび、ボール投げは全国を上回っている。
- ・20mシャトルラン、50m走が全国を下回っている。
- ・体格について、身長、体重は、小学校・中学校ともに全国を上回っている。

■実技種目の分析と改善方策

種目	改善方策・継続して取り組むべき事柄等
握力	・重いものを持ちたり、物につかまってぶら下がったりする運動を、日常的に取り入れることを心がけていきたい。
上体起こし	・最近の子どもたちは、腹筋を使う運動が少なくなっているため、日常の体育授業において、毎時間、短時間で腹筋運動を行ったり、日常的に歩く・走るなどの工夫が必要である。
長座体前屈	・体育の授業で毎時間柔軟運動を取り入れたり、テスト前に十分な柔軟運動を行う等の必要がある。柔軟運動については、二人一組で的確にストレッチをすることを心がけ、生涯体育の観点から家庭でのストレッチも取り入れたい。
反復横とび	・各学校の工夫がよい結果に表れている。 ・さらに伸ばすために、日常の運動の中で、サイドステップやラインなしの反復横とびのような運動を効果的に経験させていくことが重要である。
20mシャトルラン	・小学校男女と中学校女子で弱い面がみられる。 ・持久力だけでなく、つらいことをすぐにあきらめてしまったり、根気強く取り組めなかったりというように、意欲が大きく関係することから、楽しく挑戦できたり、みんなで応援したり、目標を達成する喜びを感じさせるような意欲喚起を図る工夫が必要である。 また、日常生活の中でも長い時間歩くことや走ることを取り入れていきたい。
50m走	・小学校・中学校ともに取組の工夫改善が必要な種目である。 ・最近はおかけっこなどの走る経験が少なくなっていることから、体育や部活動、体力づくり運動など、あらゆる機会をとらえて走る経験を積ませていくことや、縄跳びなど、瞬発力をつける運動を継続的に行うことが大事である。
立ち幅とび	・昨年度、女子に弱い面がみられたが改善が図られた。 ・立ち幅跳びは瞬発力とともに背筋力が重要な要素となる。腕ふりや着地の形も重要になることから、普段の生活の中で、立ち幅跳びにつながる運動を多く経験させたい。
ボール投げ 小：ソフトボール 中：ハンドボール	・ボールなどを投げる経験が少なくなっている。 ・全身を使って正しいフォームで力強い球を投げるために、ドッジボールやバスケットボール、野球型のスポーツ等で、正しいフォームで投げる経験を多く積ませていく工夫が必要である。

(2) ■質問紙調査の結果

<児童生徒質問紙調査より>

- ・「体育の授業は楽しい」、「卒業後も自主的に運動したい」という回答の割合が、小学校、中学校ともに全国を上回った。
- ・体育授業における各活動を「いつも行っている」と回答した割合について、「体育授業で振り返る活動を行っている」「体育授業で話し合う活動を行っている」という回答の割合が小学校、中学校ともに全国を下回った。
- ・「できないことができるようになったきっかけ」として「授業外の時間に自分で練習した」という回答の割合が、小学校・中学校ともに全国を上回った。

<学校質問紙調査より>

- ・「調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善を行った」、「体育授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組を行っている」、「運動やスポーツに関する近隣学校間の連携を行っている」、「体育指導で授業中にICTを活用している」という回答の割合が小学校、中学校ともに全国を上回った。
- ・体育授業における各活動を「いつも行っている」と回答した割合について、「目標を示す活動」と「振り返る活動」で小学校・中学校ともに全国を上回っている。
- ・同じ質問項目でも児童生徒質問紙の回答と学校質問紙の回答には差異が見られる部分がある。

(3) ■クロス集計の結果

- ・体育授業で「目標を示す活動」「振り返る活動」「話し合う活動」「助け合い役割を果たす活動」を「行っている」と回答した児童生徒は、「行っていない」と回答した児童生徒より体力合計点が高い傾向にある。
- ・肥満度について、「正常」または「やせ」傾向の児童生徒は、「肥満」や「高度やせ」傾向の児童生徒より体力合計点が高い傾向にある。

(4) ■取組について

体力・運動能力、運動習慣等の向上について、学校が組織的・計画的に取り組んでいることが成果としてあげられる。記録の掲示や個人カード・個人目標の設定、休み時間などに練習に取り組むことができる環境整備、朝や放課後などの体力づくりの時間設定や十分な練習時間の確保と複数回のテスト実施など、各学校において工夫した取り組みがなされ、多くの種目で改善が図られてきた。

特に、体育専科教員による市内教職員を対象とした体育指導の理論と技術を学ぶ研修会の内容の還流等により、各校の研修の充実が図られるなど、体育専科教員の活用による効果が大きい。

また、小学校では全学年での体力テストの実施が求められているため、教育課程の改善を図っていくことが重要である。北広島市の今年度の小学校1年生から4年生までの実施状況は80%~90%で、全国の同学年の実施率を上回っているが、調査対象である小学5年生、中学2年生につなげるためにも、小学4年生や小学6年生については体力テスト実施率100%達成を目指したい。

「授業における各活動を行っている」の項目については改善傾向にあるが、「振り返り」について課題が残った。その授業で育てたい力の定着を図るために「振り返り」を確実に行うことが重要である。

「運動やスポーツに関する近隣学校間の連携を行っている」と回答した割合は小学校、中学校ともに全国を上回った。今後も、家庭・地域と協力して規則正しい生活習慣づくりに向けての働きかけを行い、健康や運動について、学校教育の様々な場面において児童生徒の理解を深めていくとともに、引き続き小中の連携を密にして、生涯スポーツにつながるよう児童生徒の意識や運動意欲を高めるための環境づくりや運動量を確保するための取り組みを進めていきたい。

以上

平成28年度

全国体力・運動能力、運動習慣等調査

北広島市の結果

北広島市教育委員会

平成29年2月